

Epeorus latifolium UENO の記載

洞 澤 勇

Horuzawa Tsamu

日本産蜉蝣類の成蟲及び幼蟲に就いての報文は少なしとしないが、其の生活史の研究は殆んど等閑に附せられてゐる。著者は、恩師理學博士岡田彌一郎氏の御指導を仰ぎ、聊か其の缺を補ふ爲、その生活史研究に従事してゐる。偶々、本年九月上旬、長野縣木曾京都帝國大學生物研究所で、是等の幼蟲飼育中、從來不明であつた *Epeorus latifolium* UENO の幼蟲と亞成蟲とを知ることが出来たから、此處に報告する。本種は上野益三氏(5)が、幼蟲のみを 1928 年に發表したものである。

ここに、懇篤な御教導を給はつた岡田先生、文獻、記載、其の他に御助力下された西ヶ原農事試験場木下周太技師に謹んで謝意を表します。尙木曾京都帝大生物研究所で研究の自由を許された川村多實二教授並びに同所で便宜を與へられた木曾中學校三村邦雄氏に深甚の謝意を表します。

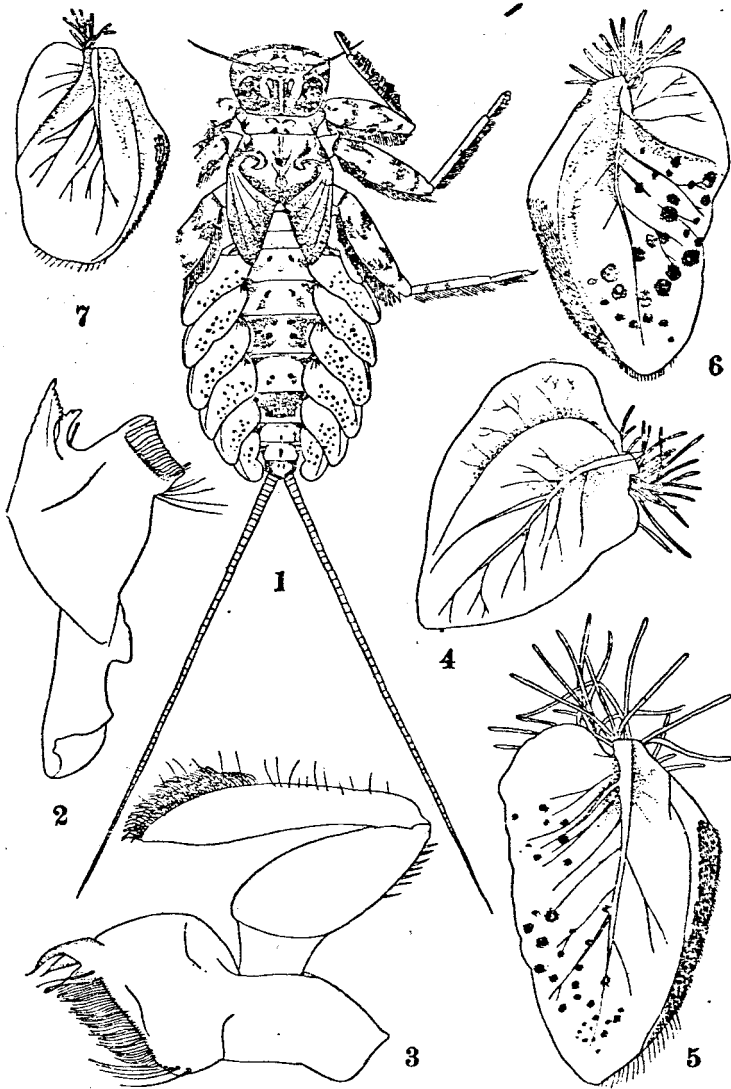
(一) 幼 蟲

色彩。黄褐色或は灰褐色、體表の到處に暗褐色の斑紋あり、殊に胸部背面のそれは複雑である。各脚の腿節には 3 條の暗褐色斑點、脛節には 2 條の同色帯がある。腹部は黄褐色、時に赤色、綠色等を呈する事あり、殊に生熟して大きな卵巢を有する雌は、綠色を帯びる場合が多い。各節には 1 對づつ明瞭な暗褐色の斑點が存在する。

頭部。頭部は甚だしく背腹に扁平となり、薄く、中胸部と共に全體中最も幅廣い。前部の廣い略々四角形で、各隅は圓味を帯びてゐる。前縁には細毛がある。觸角は褐色、頭長よりも短く、微毛を生じてゐる。複眼は暗黒色で甚だ大きく、後頭部に位置し、其の間に 3 個の灰色の單眼がある。

口器。上唇は略々矩形で、各隅角は甚だ圓味がかつてゐる。又前邊の中央には凹部がある。側縁から前縁にかけて、長毛が發達してゐる。顎は強固で、

最外側の歯最も大きく、且つ廣く、其の内側は明瞭な鋸齒狀を呈してゐる。
 外側より二番目の歯は之より小さく、頂は約4個の鋸齒に分たれてゐる。顎



挿圖 1. *Epeorus latifolium* UENO.

1. 幼虫の背面観 (×4). 2. 上顎 (×52). 3. 下顎 (×52).
 4. 右の第一気管鰓 (×19). 5. 左の第二気管鰓 (×19).
 6. 右の第六気管鰓 (×19). 7. 右の第七気管鰓 (×19).

は左右同形で、い、下顎の内葉の頂には3個の強壯な歯が発達してゐる。外葉は2節からなり、第二節の前外側部にある密毛は先端彎曲してゐる。下唇は幅広く下唇鬚の頂部には密毛がある。

胸部。前胸は長さより幅甚だ廣いが、頭部よりは狭い。中胸の中央背面は稍丸く隆起してゐる。翅鞘は生熟した幼蟲では黒色を帶び、厚さは厚く、三角形である。各脚の腿節は著しく扁平となり、脚の各節外側には細毛を生じてゐる。跗節にある鉤は基底より約3分の2の所まで5齒により飾られてゐる。

腹部。各節1對の略々圓形の點紋の外、暗褐色の斑紋がある。背腹に扁平で、末節に到るに従ひ細まつてゐる。第2-6節までは側方に刺狀突起を有し、尙第1-7節には各1對の氣管鰓がある。その第2-6には多くの紫黒色斑紋が存在してゐる。氣管鰓は歪んだ卵形で、第1を除く他のそれは基端より稍々下つた所から外側邊に細刺を無数に生じ、其の後端近くからは細毛を生じてゐる。第1鰓は基部甚だ幅広く、第7鰓は最小である。第1及び第7鰓は各對腹側にて重なり合つてゐない。尾脚は2本、無毛である。

測定。

番 號	體 長	頭 幅	後脚腿節長	尾 脚 長
1	14 mm.	3 mm.	3 mm.	16 mm.
2	12 mm.	4 mm.	3 mm.	16 mm.
3	12 mm.	4 mm.	3 mm.	14 mm.
4	11 mm.	3 mm.	3 mm.	13 mm.

附記、本幼蟲の分布は比較的廣い、割合に清淨な急流中の石、波寄する湖岸の石等の下に密着し棲息してゐる。長野縣地方では8月から9月にかけてよく生長した幼蟲を得られる。即、成蟲の出現期は此の頃である。

(二) 亞成蟲 (雄)

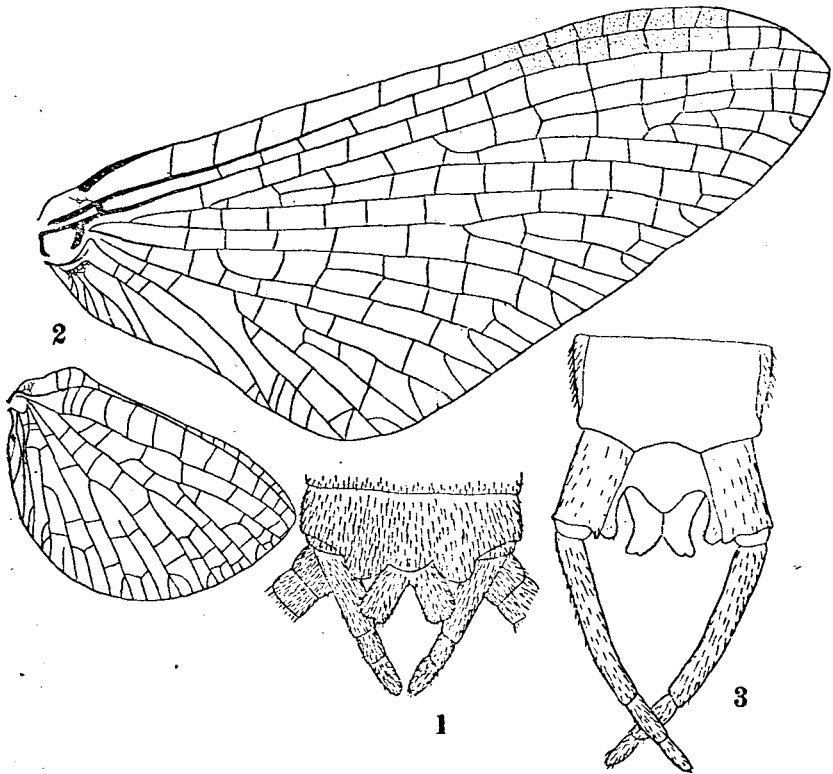
色彩、暗灰色を帶び、褐色。頭部前背中央にV字形の黒斑がある。前胸の背面前部及び中央部に各1對の黒線が発達し、中胸背面には5對の黒條及び其の後部に1對の太い黒褐色帶がある。後胸には中央線に沿ひ1對の太い黒

帯があり、其の後縁は暗褐色である。腹部には中央線に沿ひ1黒線がある。各脚の腿節には3暗褐色帯が発達し、翅の基部には黒色斑が有る。

體は極めて柔弱、複眼は黒灰色で大きく、觸角は鞭狀で細く且つ短い。前胸は頭部より狭い。中胸の中央は高く盛り上り、腹部は圓筒形で腹面多少平らかとなつてゐる。前後兩翅の内外縁には細毛がある。尾脚には微毛存在し細長い。雄の把握器は成蟲のそれとは少し異なる。

測定。

體長	頭幅	後脚腿節長	尾脚長
10.5 mm.	2.5 mm.	3 mm.	18 mm.



挿圖 2.

1. 亞成蟲の尾部 (×30).
2. 成蟲の翅 (×9).
3. 成蟲の把握器 (×30).

(三) 成蟲 (雄)

雌は遂に得られなかつた。

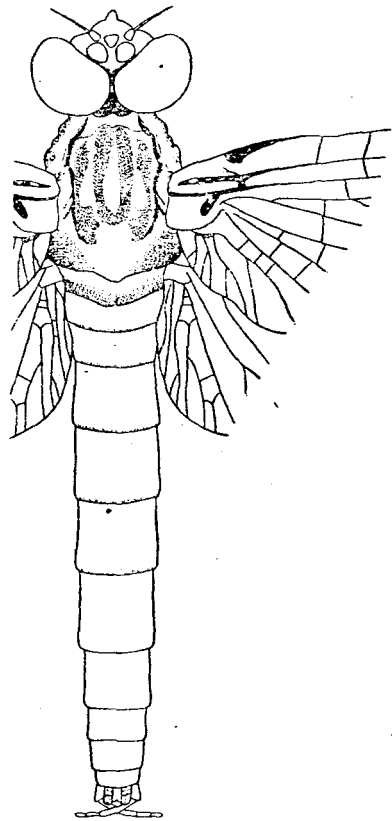
色彩。褐色がかつた灰色。頭部は黄褐色で單眼の直後は黒色を呈し、複眼は1黒帯を有する灰色である。各胸節には暗褐色の斑紋が廣く分布し、殊に中後兩胸節では亞成蟲よりもそれが廣い。脚は薄い灰色、腿節には3褐色帯發達し、脛節及び跗節の後縁は黒い。

翅は大體無色透明であるが C, CS, Rの縦脈基部は黒色で、尙 R-C脈間には乳色不透明部が存在する。腹部は灰白色、各節の後縁は褐色を呈してゐる。

體各部は軟弱である、

頭部。大部分は大きな複眼に占められ、頭部前縁は二段に圓く弧を畫き、中央前端は狭く突出してゐる。觸角は鞭狀で細く短かくて、無毛、鱗狀の斑紋が一面に發達してゐる。複眼は大きく兩眼相寄り殆んど接觸してゐる。3單眼發達し、其の中で後方の2個は大きい。

胸部。前後兩胸節は甚だ短かくて前者の如きは複眼に蔽はれて背面からは見へない。中胸は甚だ大きい。前脚は亞成蟲期のそれに比して非常に長大で、前期に3種であつた腿節



挿圖 3. 成蟲♂の背面観 (×9).

及び脛節は夫々4種となり跗節は著しく其の長さを増加してゐる。翅は前期と殆んど同様であるが、内外兩縁に發達してゐた細毛を失ふ。前翅の翅脈中M脈はRとの分岐點より27分の17の所にて二分し其の間に1縦脈を挟み

横脈は數少い、 A_1-A_2 脈間には前者に連結せる 4 縦脈あり、 A_1 , A_2 脈は僅かに 2 横脈により連らねられてゐる。 A_2 脈は 2 横脈を内縁に出す。後翅は比較的大きい、後角は滑らかで、内外兩縁は共同して、一つの弧を畫いてゐる。外縁の方が内縁より長い。又後翅は縦脈に富んでゐて、M 脈は基部より約 12 分の 5 の所で分岐し其の間に 1 縦脈及び少數の横脈がある。

腹部、圓筒形で、末部に來るに従ひ細まつてゐる。内把握器は外把握器より退歩して著しく短かい。尾脚は 40 糧を算し、前期の 18 糧に比すれば遙かに長い。

測定。

番號	體長	頭幅	前翅長	後脚腿節長	尾脚長
1	15 mm.	3 mm.	13 mm.	4 mm.	40 mm.
2	14 mm.	3 mm.	13 mm.	4 mm.	—

日本産蜉蝣類の主なる文獻

(* 印の附されたのは著者が原文に接せられなかつたもの)

- 1)* EATON, A. E. (1892) "On two new and some other Japanese species of Epheme idae." Entom. Month. Mag., Vol. XXVIII, pp. 302-303.
- 2) 川村多實二 (1918) 日本淡水生物學, Vol. I, pp. 255-261.
- 3) 松村松年 (1905) 日本千蟲圖解, Vol. I, pp. 159-161, Pl. X, Fig. 8-12.
- 4) 高橋雄一 (1924) "日本産蜉蝣五新種." 動雜., Vol. XXXVI, pp. 377-380.
- 5) M. UENO. (1928) "Some Japanese Mayfly Nymphs." Mem. College Sci. Kyōto Imp. Univ., Series B, Vol. IV, No. 1, Article 2, pp. 19-63, Pl. III-XVII.
- 6)* ULMER, G. (1912) H. Sauter's Formosa-Ausbeute. Ephemeriden." Entom. Mitteil., Nr. 12, pp. 369-375.

(東京高等師範學校動物學教室にて)

Vol. III

KONTYÛ

1929

published by the
Tôkyô Entomological Society

昆 蟲

第 三 卷

東京昆蟲學會

昭和四年